

# 春を 迎える



学長を囲んで (撮影: 天野 貴司)

## 特集 旅立ちのとき

■ 担任から卒業生へ

■ 研究発表会

■ 学科活動紹介 / 事務部から

■ 教員の活動紹介<sup>14</sup> / 先輩から後輩へ<sup>14</sup>

■ アンケート結果報告 / 川崎エコプロジェクト

■ 「医療功労賞」受賞 / 消防訓練

■ インフォメーション

特集

旅立ちのとき



今年度卒業証書・学位記授与式は3月16日(月)に行われ、378名のみなさんが旅立ちのときを迎えます。また長年本学の教育にご尽力くださった守田哲朗学長が今年度で学長職を退かれます。

そこで、今回の特集では、まず守田学長の川崎学園での思い出と教職員、在学生、特にこのたび巣立っていく卒業生に対する激励のメッセージを紹介します。同時に、卒業生の皆さんには今心に去来する思いを語っていただきました。卒業は決して「終わり」ではなく、次へつなげるための「始まり」のときです。卒業生の皆さんは、川崎医療短期大学での生活を振り返るとともにさらに未来へ向かって歩みを進めようとしています。

おめでとう！皆さんの前途を祝福しています！

本学の発展と皆さんの活躍を願って

学長 守田哲朗

春の訪れと共に、今年も業成った皆さんの巣立つ日が参りました。卒業おめでとう。心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、入学以来二年あるいは三年、この間に修得しなければならなかった知識や技術は大変なものでしたが、よく頑張ったことを身に付けました。また、医療・福祉に携わる人として何よりも大切な心豊かな人間性と幅広い教養、そして何事にも積極的に立ち向かう根性も培ってきました。私は、皆さんのこれまでの研鑽と努力を称え、今後益々の活躍を期待して止みません。

ところで、私もこの三月末を以って本学学長を退任します。思えば昭和四十八年、医科大学に赴任し、それから医療福祉大学、医療短期大学へと続く三十六年もの長い間、川崎学園にお世話になりました。たくさんの思い出を頂きましたが、その中から短大時代のいくつかを挙げ、卒業の皆さんに贈る言葉にしたいと思います。

◆臨床に強い栄養科の設置

本学との拘わりで、最も印象に残っているものは、昭和五十八年四月に設置された栄養科との関係です。創設に当って、当時の川崎祐宣理事長は、「病院実習の時間を多くして卒業後すぐに役立つ栄養士を育ててほしい」と言われ、修

業年限を三年とされました。

早速、開設準備に取り掛かりました。苦労しました。中でも三年間のうち一年間は、附属病院や小学校などで学外実習をするため、その準備が大変でした。全国でただ一つの臨床に強い栄養士養成の短大でしたから、手本となる事例はどこにもありませんでした。しかし、苦労の結果、四十週間にわたる学外実習計画が出来上りました。

栄養科は、他の大学で類のないユニークなカリキュラムをこなすために、講義や実習は、実にハードでしたが、一学期から最終の八期生までの学生たちは皆頑張つて、実力を身に付け巣立っていました。

就職率は、一期生から100%の完全就職を果たし、しかも83~98%が栄養士としての就職でした。卒業後一年間の勤務経験を経て管理栄養士国家試験に受験し、全国短大の中で常に上位に位する輝かしい合格率を残しました。

全国的に注目された栄養科でしたが、平成三年四月、医療福祉大学の開学を機に、四年課程の臨床栄養学科に改組移管しました。僅か十一年の短い命でしたが、大きな成果とたくさんの思い出を残してくれ、現在もその精神は、臨床栄養学科において脈々と生き続けていると信じています。



高大連携教育調印式  
(県立和気閑谷学校と)



第二看護科開科  
記念植樹



学生との座談会を記念して  
(平成20年度)



平成18年度卒業式

学長 思い出の写真

守田学長の歩み

略歴

- 昭和29年 岡山医科大学卒業
- 昭和34年 医学博士(岡山大学)
- 昭和35年 岡山大学医学部小児科学教室講師
- 昭和44年 岡山大学医学部附属病院小児科学講師
- 昭和48年 川崎医科大学小児科学教室助教授  
川崎医科大学附属病院小児科医長
- 昭和50年 川崎医科大学小児科学教室教授
- 昭和51年 川崎医科大学附属病院小児科部長
- 昭和58年 川崎医療短期大学栄養科主任教授(併任)
- 平成3年 川崎医療福祉大学医療技術学部  
臨床栄養学科教授(併任)
- 平成7年 川崎医科大学名誉教授
- 平成9年 川崎医療福祉大学医療技術学部部長
- 平成11年 川崎医療福祉大学副学長
- 平成13年 川崎医療短期大学学長、学校法人  
川崎学園理事

受賞歴

- 昭和62年 岡山県教育委員会社会教育文化功労賞  
受賞
- 平成3年 岡山県知事感謝状(保健婦教育功労)
- 平成4年 文部大臣表彰(社会教育功労)
- 平成11年 社団法人日本栄養・食糧学会功労賞受賞
- 平成18年 第64回山陽新聞賞(教育功労)受賞

◆医療に明るい保育士の養成

私は、平成十三年四月から短大  
学長に就任し、「チーム医療」を担  
う実力があり、心豊かで幅広い教  
養を身に付けた医療・福祉専門技  
術者の養成を教育目標として、特  
色あるコ・メディカル教育を培っ  
てきました。その一つが医療保育  
士の養成です。

今日、社会情勢の急激な変化に  
伴い、保育への要望は、著しく多様  
化し、保育現場においては、保育の  
対象が病気や心身発達障害など、  
特別な保育が必要である乳幼児  
にまで拡大しております。このよ  
うな時代の要請を受けて、本学で  
は平成十七年四月、全国短大で初  
めて、病児や発達障害児について  
病状的確な判断と適切な対応  
の出来る医療知識を備えた専門  
性の高い保育士を養成する医療  
保育科を開設しました。創設時の  
カリキュラム作成に当っては、栄  
養科の時と同様、情熱的に取り組  
みました。

本学科は幸いにも、スタート時  
から受験生の評判がすこぶるよ  
く、教職員と学生が一体となって  
特色のあるすばらしい学科創りに  
貢献してくれました。

そして、昨年三月には、一人の落  
伍者を出すことなく、一期生全員  
を社会に送り出すことが出来ま  
した。特に本学から、わが国初めて  
の「保育の現場が熱望する医療と  
保育の専門性を兼ね備えた保育  
士」が巣立ったことは感慨無量で  
した。

◆教養教育の重視と医療福祉教  
養講座の導入

短期大学には二年あるいは三年  
の短期間で看護師や臨床検査技師  
などの国家資格を取得出来るとい  
うメリットがあります。また、短大  
で何らかの資格取得後、四年制大  
学三年生に編入学し、もう一つの  
資格を取得することも可能です。

ところが、この短大からの編入  
学ですが、教養科目の取得単位数  
が少なく、折角、編入学出来ても、

三学年次は教養科目の単位修得に  
追われるため、二年間での卒業は  
難しいようです。そこで、本学では  
共通の空き時間となる五時限目に  
「総合科学入門」、「文章表現」、「医  
学英语」などの教養科目を特別に  
開講することになりました。

これは編入学希望の学生への対  
応に加えて、入学生への物理・数学  
などの基礎学力補充と文章表現力  
の向上を狙ったものですが、実はそ  
れだけではありません。医療系な  
ど、人を相手にする職種では先に  
述べたように幅広い人間性が重要  
ですが、とかく専門科目を優先し  
がちな短大において、いかにして人  
間性を養っていくか、このためにも  
教養教育にもっと時間を充てなけ  
ればなりません。これに関連して、  
本学では全学の学生を対象に学  
園内外から有識者を招いて「医療  
福祉教養講座」を開講しています。  
これはなかなかの好評で、会場は  
立錫の余地もない程であり、全学  
を横断する特色ある教育として、  
その成果が大いに期待されます。

◆卒業生に贈る言葉

皆さんは、在学中は良き医療・福  
祉専門職を目指し、「人をつくる、  
体をつくる、深い専門的知識技能  
を身につける」の建学の理念を目  
標として、とりわけ心豊かな人間  
性を培うべく努力してきました。  
皆さんに求められている人間性  
は、一朝一夕で到達出来るものでは  
ありません。やがて実務につい  
たならば、生涯の課題として日々  
の活動と体験を通して追求し、実

践されることを切に希望します。

皆さんは、他の大学が追随を許  
さない程の充実したカリキュラム  
の下で教育を受けました。卒業後  
しばらくの間は、例えば病院です  
と、チーム医療のスタッフとして  
の活躍が期待出来るでしょうが、こ  
れが未長く続くかとなると問題  
です。最近の医学・医療の進歩には  
目を見張るものがあります。各専  
門職種での学問や技術の進歩も同  
様です。皆さんは、これから先も弛  
まさない厳しい生涯学習への取り組  
みが必要です。皆さんの旺盛な学  
習意欲とこれまでの学習成果から  
すると、きっと大丈夫だと信じて  
いますが、油断は常に大敵、一層の  
努力を望んで止みません。

皆さんは、これから実社会にお  
いてこれまで以上に多くの困難や  
苦労に出会うでしょう。職場は毎  
日が真剣勝負の場です。新しい仕  
事、新しい人間関係の中でいろ  
ろと試されたり、評価されたり、成  
功と失敗、自負と自信喪失が繰り返  
返されております。そこで失敗し  
ない人はいないのであつて、失敗  
があつてこそ、成功があり、失敗を  
反省して立ち直るところに進歩が  
あります。失敗を恐れず、困難な  
新しい仕事にチャレンジする気力  
と体力を持つこと、これは若い皆  
さんの特権です。最近の皆さんは、  
見違える程の人的成長ぶりを  
示しています。頼もしい限りです。  
しかし、卒業後のこれからのがいよ  
いよ正念場です。益々の成長と活  
躍を祈念します。

山陽新聞賞受賞



上海職工医学院からの  
訪問団と



山陽新聞賞受賞を  
祝う会でのご挨拶



山陽新聞賞受賞を  
祝う会での一コマ



短大教職員歓送迎会での一コマ

# 卒業おめでとう!



共に苦しみ、共に助け合った仲間…  
この笑顔に支えられ、  
今、私たちは旅立ちます。

## 卒業にあたって想いを語る!

卒業を控えた各学科代表学生

### ● 大学時代一番印象に残ったことは?



大筒 愛(看護科)

私にとって、大学時代一番印象に残っていることは、たくさんの笑顔です。私はこの三年間、初めて耳にする多くの専門用語に戸惑い、複雑な身体の構造を理解して看護の学習を進めていくことに難しさを感じてきました。しかし、友達同士で励まし合いながら勉強し、クラスのみんなの笑顔に支えられて、これに乗って切ることができました。また、臨地実習では、看護ケアを提供したあとの患者様の笑顔が、私に「看護師は人と人が触れ合える素晴らしい仕事」であることを改めて感じさせてくれました。看護科は、勉強や実習と本当に大変なことも多いですが、みんなで笑顔で支えあえば、きっと楽しく充実した三年間を送ることができると思います。

高路 紗智子(臨床検査科) 特に印象に残っているのは、学園祭です。三年目にして初めて、模擬店を出すことができ、とても充実した学園祭でした。夜遅くまでおでんを仕込んだり、細かな道具を整えたりと考えていた以上に準備が大変でしたが、友達と楽しくできたことがとてもよい思い出になりました。



高路 紗智子(臨床検査科)

今川 初美(介護福祉科) 短大生活で一番印象に残っていることは友人との出会いです。私は、高三の時に福祉系か美容系かどちらに進むか悩みました。しかし、少子高齢化が進む社会に少しでも貢献できたいという思いで、福祉の道に進むことを決めました。しかしざり始めてみると、福祉は奥が深く、内容を十分理解することができなかったり、実習の厳しさを体験したりして、後悔したこともありました。そんな時、介護科の友達に何度も励まされ、話を聞いてもらい、いつも温かい言葉をかけてもらい、将来介護福祉士としてがんばろうという気持ちになりました。



今川 初美(介護福祉科)

白神 麻衣(医療保育科) 私は本学医療保育科に入学して本当に良かったと思っています。親はもちろん、友人や実習先の先生方など短大生活で出会ったすべ



白神 麻衣(医療保育科)

ての人に對して感謝の気持ちでいっぱいです。特に、私達のことを一番考え、支えてくれ

### ● 今だから言える

#### 感謝の言葉は?

今川(介護福祉科) 私は母に「ありがとう」を送りたいです。短大での二年間、福山から通いましたが、母は毎日朝早くからお弁当を作ってくれました。夜遅くまで仕事をしていて、とても大変だったと思います。アルバイトをしていたため、家でご飯を食べることが少なくなり、毎日のお弁当がすごく嬉しかったです。

## お母さん、ありがとう!

また、就職を決める時も、私のやりたいことを聞いてくれ、最後まで相談ののってくれました。喧嘩をする時もあるけれど、母には思っていることが全部言えるので、この二年間で改めて親はすごいと感じました。

そして、短大で出会った友達みんなにもありがとうと言いたいです。特に三段階の実習の時に、実習のしんどさを理解してくれ励ましてくれた友達にはとても支えられました。これからは支えてもらうばかりではなく、しっかり支えていけるようになりたいと思います。二年間で、親や友達の大切さが改めて知ることができ、この短大に入学してよかったと思います。



廣田 聖二(臨床工学科)

一緒に頑張った友達、共に発表会に臨んだみんなに、本当に感謝しています。ありがとうございます!

なく、定期テストでは再試験になることもありました。特に物理系が苦手だった私はわからない箇所を友人や先生に教えてもらう事が多々ありました。また、病院実習においても同じ班の人に迷惑をかけることも多かったです。私は友人達や先生方がいたからこそ、ここまで到達できたと思っています。友人達や先生方にはとても感謝しています。

●川崎医療短期大学の

いいところは？

**八田祐樹(放射線技術科)** 短大のいい所として臨床実習期間が長いことがあります。二年後期になると隣接する川崎医科大学附属病院を中心として約一年間、講



義と実習を平行して行います。実習により、実践的な技術を身につけるだけでなく、授業で学んだことが臨床の場でいかに役に立つかを感

感することができ、授業が理解しやすくなります。

**大筒(看護科)** 本学は、先生方に試験や就職に関しての相談や、悩みを打ち明けやすい環境が整っていて、学生の立場に立ったアドバイスをいただくことができました。私たちのために、国家試験に向けてオフィスアワーや、補講授業を開いてくださって、先生方がとても協力的してくれました。

また、カリキュラムでも学内実習、臨床実習、施設見学等が充実していて、専門的学習を深め、精神的にも成長することができたと思います。特に、実習後は、学内で振り返りを行い、積極的に自分の意見を言うことや人の意見を参考にする大切さを学び、人間の幅を広げることができたと思います。

●後輩へのメッセージを：

**八田(放射線技術科)** 短大は三年間で免許を取得できるという利点があります。しかしその反面、時間割が詰まっています。すぐに専門科目が始まるので、分からないことをそのまま

にしておくとその以降の授業も分からなくなります。そうならないためにも、分からないければすぐに教科書を調べたり友達に聞いたりして、それでも解決しないときには先生に質問してすぐに解決した方がいいです。

**白神(医療保育科)** 授業や実習など辛いこともあると思いますが、一生懸命頑張れば、必ず相手に伝わります。それに医療保育科には助けてくれる友人や先生が沢山いるので、気持ちを楽しんで何事も楽しんで下さい。

卒業生のみなさん、どうもありがとうございます。

卒業後もさまざまな場で活躍されることを期待しています。この川崎医療短期大学は、卒業生の皆さんのことを誇りに思っています。

(まとめ 臨床検査科 近末久美子)



仲間たちがいつも周りにいてくれた。家族や先生方が温かく見守ってくれた。だからがんばれた。心からありがとうのメッセージを送ります。



今回質問に答えていただいたみなさんです。

- 大筒 愛さん (看護科 3年)
- 高路紗智子さん (臨床検査科 3年)
- 八田 祐樹さん (放射線技術科 3年)
- 廣田 聖二さん (臨床工学科 3年)
- 今川 初美さん (介護福祉科 2年)
- 白神 麻衣さん (医療保育科 3年)

■栄えある「学科賞」受賞予定者

平成二十年度卒業証書・学位記授与式は三月十六日に挙行され、各学科の成績優秀者に「学科賞」が贈られます。また、平成二十年度卒業生からは、①ソファー、サイドテーブル(学生ホール・各五脚)、②傘立て(教室十五個所)、③トイレ用擬音装置(女子トイレ四十七個所)が寄贈され、卒業生へは記念品として「ネームペン」が贈られます。

- 看護科……………四方田香澄
- 臨床検査科……………村上 睦枝
- 放射線技術科……………廣末 美幸
- 臨床工学科……………林 逸美
- 介護福祉科……………平内眞利江
- 医療保育科……………西本 彩

看護科三年留学生

◆胡 慧子



看護の道へ頑張る

二〇〇五年一〇月、私は希望に胸を躍らせて、日本の看護を勉強するために岡山にきました。

次の年の桜が満開の四月、本格的な看護の勉強が始まりました。この三年間で、充実した授業を受け、実習をし、そして、先生に親切にご指導をしていただき、実際に様々な患者様と接することにより、看護の意味と価値を味わうことができました。

今後も、自分が本学の卒業生としての誇りを持って、帰国しても精一杯努力し、皆様のご期待に背くことのないように、看護の道で頑張りたいと思っております。

最後に、川崎学園および川崎医療短期大学の皆様、ご支援くださったすべての方々に深く感謝いたします。

看護科三年留学生

◆彭 一蓓



感謝

四季折々の花々が美しい川崎医療短期大学でのこの三年半の留学生生活は間もなく終止符を打ちます。帰国日が近づいてきました。月日が本当に矢のように過ぎ去るのを実感しました。振り返ってみれば、三年前のことが昨日のように思えます。この三年間、看護専門知識を身につけることはもちろん、日本の文化、習慣を深く理解することもできました。同じ夢を持った友人に出会い、励まし合いながら臨床実習を乗り越えられたのは、一生忘れられない思い出になりました。

日本で学んだ知識、技術を母国で活かし、患者様の立場に立つてよりよい看護が提供できるように頑張っていきたいと思っております。

最後に、川崎学園、とりわけ短大の皆様にご心より感謝いたします。

# 担任から 卒業生へ

卒業おめでとう

## 看護科第三学年担任

林千加子

ご卒業おめでとうございませう。



三年前の四月にあなたたちと初めて出会い、はやお別れの時期となつてしまいました。四月からは苦楽を共にした仲間とも別れて、それぞれの新しい人生が始まります。「一期一会」これから出会う人達を大切に！

どうか、これからの経験を大切に、周囲の人達を大切に、そしてなにより自分自身を大切にしながら、ますます精進してください。

目標に向かってより一層の御活躍をお祈りしています。

## 看護科第三学年担任

合田 友美



看護科を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございませう。長い間の努力が実り、今日を迎えられたことに心からのお祝いを申し上げます。

常に夢を持ち続け、そして夢を実現させる逞しさを身につけた皆さんの晴れやかで凛々し

い姿は、私たちの誇りであり喜びです。

皆さん一人ひとりのこれからの生活が、未知との出会いで心ときめく感動に溢れたものであり、楽しく実り多いものであることを願っています。

## 臨床検査科第三学年担任

近末 久美子

ご卒業おめでとうございませう。



忙しい学生生活が今終わろうとしています。まずはそのがんばりをほめてあげてください。そして、また前を向いて、新しい道を自分らしく歩き始めてください。

これからは、大人としてのがまんを身につけることです。大人としてのしなやかさと強さを身につけることです。そして、大人としてさらに大きく進化していくことを期待しています。日々進化を遂げることで。ご健闘をお祈りします。

## 臨床検査科第三学年副担任

鐵原 拓雄



これから就職、進学とそれぞれ道が分かれます。この最初の数年間が、今後の人生の方向に大きく影響するので、大切にして頂きたいと思ひます。また、人それぞれ、希望や目標が異なりますが、常に前向きに、笑顔で、相手を思いやる気持ちを忘れない医療人となることを期待します。

## 放射線技術科第三学年担任

荒尾 信一

卒業おめでとうございませう。あつという間

の三年間ではなかった

でしょうか？高等学校卒業とは違い、本学を卒業すると大半の人は同じ職業を持つ社会人になります。ここで形成された人間関係は財産です。同級生を大切にしてください。そして、職場の先輩や、い

ずれでできる後輩も大切にしてください。また、己においては職場で必要とされる人材になれるよう努力を惜しまないでください。そのことを心がければ、おのずと幸せな人生が開けていくと思ひます。

この三年間、皆さんの担任を受け持ついろいろな刺激と大きなパワーを日々いただけてきました。ありがとうございます。ご活躍を期待しております。

## 臨床工学科第三学年担任

片岡 則之



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。これから皆さんは、教わる立場から、人に教える立場になります。がらりと変わる環境に戸惑う人もいるかもしれませんが、就職後しばらくして大きな壁にぶつかる人も出てくるでしょう。しかしながら、川崎医療短期大学で培ったことを礎に頑張れば、必ずや道は拓けます。それぞれの道で皆さんが活躍されることを祈っております。

## 介護福祉科第二学年担任

田中 久美子



皆さん達とともに過ごした二年間は、非常に楽しくあたたかな時間でした。本当にありがとうございます。感謝とともに心から

「卒業おめでとう」の言葉を送ります。

卒業後は七期生の皆さんがそれぞれの道を歩んでいくこととなります。一人ひとりの人生が、幸多きことを祈っています。

どうかお元気で！なお一層のご活躍を期待しています。

## 医療保育科第三学年担任

小河 晶子



ご卒業おめでとうございませう。

成功には「1%のひらめきと99%の努力」と言ひますね。皆さんは「ひらめき」というのは何もないところに湧いてくるように思われたいませんか。しかし、「ひらめき」というのは懸命に何かに取り組んだご褒美として与えられるのではないかと思ひます。みなさんもこれから努力を惜しまず、1%のひらめきのご褒美を得て、成功をつかんでいて下さい。

## 医療保育科第三学年担任

宮津 澄江



卒業生の皆様、卒業おめでとうございませう。卒業と同時に新しい自分への第一歩が始まります。

本学で経験し学んだ多くのことをもとに、今度は夢を持って夢の実現に向けて行動することになるでしょう。人生は学びの積み重ねです。学ぶことは、常に新しい自分をつくりあげているということです。

それぞれの場所で日々の自分の出来事を通していろいろな学んで成長していき自分を高めていってください。

臨床実習研究発表会

臨床検査科



平成十九年十二月十九日(金) 本学体育館講義室にて、第七回臨床検査科臨床実習研究発表会を開催しました。実行委員長である平田直也さんの開会挨拶後、二会場に分かれて計四十二演題の発表を行いました。

臨床検査科では、二年生後期から約一年間の病院実習を行い、実践的な知識や技術を習得します。その後、二ヶ月間、形態検査系・生物化学検査系・病因生体防御検査系・生理機能検査系に分かれ、実験、症例検討、データ収集や解析などを行い、結果をまとめました。

案内状の作成、研究論文集の編集作業、会場の準備など発表会の準備全般、当日の運営は卒業研究委員が中心となり実施しました。私もその一人として作業に加わりましたが、研究のまとめ作業と並行して、国家試験の勉強や就職活動も行わなくてはならないため、日程的にも、精神的にも厳しい日々が続きました。また、研究論文集の作成では、これまで、各部署で行った研究の内容をまとめるという作業を行った経験がなかったため、指導者にとこと細かくアドバイスをしてもらい、何度も書き直しの作業が続きました。

発表会当日は、多くの指導者の方々

や学生の皆さんが集まっていたとき、より緊張感が高まりました。しかし、発表本番では、緊張しながらも堂々とした姿が見られ、質疑応答にも適切に対応できました。

私たちは、将来仕事に就いたとき、この経験を必ず活かしていきたいと思えます。研究発表会開催にあたり、ご指導してくださりました諸先生をはじめ、お世話になったすべての方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(臨床検査科三年 西岡朋美)



実行委員メンバー(後列中央が筆者) 発表の様子

卒業研究発表会

放射線技術科



平成二〇年十一月二十九日(土)に、放射線技術科第十二回卒業研究発表会が開催されました。

今年も、新たな試みとして、発表の後にある討論の時間にまず学生からの質問を優先的に受け付けました。例年、主に教員からの先生方からの質問が多く、学生から手が挙がることは少なく、やや寂しい発表会に感じていたからです。その結果、学生からの質問が増え、理解を深めることができたと感じます。この場をお借りして、御協力いただきました参加者の皆様にお礼を申し上げます。

当科の発表会では、毎年優秀演題の表彰を行っています。発表された十八演題の中から、今年是最優秀賞に「MRA (PC法)の血流動態表示に関する基礎的検討」、わずか一票の差で惜しくも優秀賞に「MRI画像を用いた早期アルツハイマー型認知症における画像診断」が選出されました。しかし、いずれの演題も近年に無くなる程度の高内容で、充実した発表会であったとの講評をいただきました。

いよいよ目前に迫った国家試験を乗り越え診療放射線技師としての職務に就けば、しばらくは研究活動よりも業務が優先されるでしょう。しかし、卒業研究で学んだことを糧に、いつの日か本当の学会の演壇に立ちたいと思います。

(放射線技術科三年 廣末美幸)



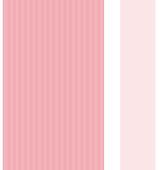
質疑応答で質問をする学生



発表の様子

卒業研究発表会

臨床工学科



臨床工学科の学生は、最終学年において、川崎医療短期大学臨床工学科の教員を中心に、学園内の関連施設で活動する多くの研究グループの一つに配属され、教員の指導のもとに卒業研究を行います。各卒業研究生(卒業生)は、基礎医学、臨床医学、応用医学など多くの関連分野の研究テーマの中から一つのテーマを与えられ、四月から十二月まで研究に励みます。そして、卒業論文をまとめた後、卒業研究発表会で学生や教員を前に研究内容を発表することになるのですが、最終学年では、卒業研究だけでなく、病院実習、国家試験の準備、就職活動と、並行して多くの重要な活動をしなくてはならず多忙です。就職後、実社会においては、複数の任務を同時にこなして行くことは珍しい事ではありませんが、学生にとっては大いに鍛えられる期間となります。

卒業研究論文集の編集、発表会の準備と進行、さらに打ち上げまで、すべて卒業生から選ばれた委員が中心になって進めます。発表会では、同級生や教員だけでなく、川崎医療福祉大学等で臨床工学を学ぶ学生も参加するので、卒業生は後進の教育の役割も果たします。座長としての司会進行や質疑応答も卒業生が主体となって行うのですが、本年度は、卒業生だけでなく後輩からも活発に質問が出され、充実した発表会になりました。あらためてご指導いただいた教員の方々に心より御礼申し上げます。

卒業研究発表会では、同級生や教員だけでなく、川崎医療福祉大学等で臨床工学を学ぶ学生も参加するので、卒業生は後進の教育の役割も果たします。座長としての司会進行や質疑応答も卒業生が主体となって行うのですが、本年度は、卒業生だけでなく後輩からも活発に質問が出され、充実した発表会になりました。あらためてご指導いただいた教員の方々に心より御礼申し上げます。

卒業研究発表会では、同級生や教員だけでなく、川崎医療福祉大学等で臨床工学を学ぶ学生も参加するので、卒業生は後進の教育の役割も果たします。座長としての司会進行や質疑応答も卒業生が主体となって行うのですが、本年度は、卒業生だけでなく後輩からも活発に質問が出され、充実した発表会になりました。あらためてご指導いただいた教員の方々に心より御礼申し上げます。

(臨床工学科 教授 後藤真己)



発表の様子



質疑応答の様子

学科活動紹介

# 臨床工学科二〇年間を振り返って

臨床工学科教授 軸屋 和明

ご承知のように、本学臨床工学科は川崎医療福祉大学医療技術学部の臨床工学科設置により、学生募集を停止し、在籍中の学生の卒業を待つて廃止されます。臨床工学科（医用電子技術科の名称でスタートし、一九九九年四月臨床工学科に改称）は、一九八八年四月に厚生省（当時）認定の国家資格「臨床工学士」の養成校として開設されましたが、当時、臨床工学士とはどんな資格なのか、どんな業務を行うのか、将来性はどうか、就職は間違いないかあるのか、待遇はどのようになるのかなどわからないことが多かったです。当然のことながら、高校の進路の先生にも、高校生にも、高校生の保護者の方にも、さらには病院や医用工学関連企業の人事の方にも理解が困難なところが数々ありました。このため、期待しているように臨床工学士の知名度は上がらず、振り返ってみれば、この二十年間はこの問題との戦いだったと思えます。そこでこの機会に、臨床工学士について臨床工学科の学生、保護者だけでなく、他学科の皆様にも臨床工学士についてより一層の理解を頂きたい原稿を書きました。

一昨年テレビの連続ドラマ「医龍」が

坂口憲二主演で放映されました。このドラマのなかでME（エム・イー）さんと呼ばれていた人がいましたが、この人が厚生労働省認定の国家資格「臨床工学士」を持った医療専門職です。「臨床工学士」の国家資格制度は、社会からの強い要請により一九八八年に発足した比較的新しい資格であり、医療職のなかで唯一工学という言葉が使われているのが特徴です。

私はオープンキャンパスなどでは、「臨床工学士」の必要性を次のように説明しています。「病院の中には検査するための機器、診断するための機器、手術に際して利用する機器などたくさんあり、多くの人はこれらの恩恵を受けています。これらはテクノロジーの進歩により年々ますます高度化、精密化していきますので、臨床においてこれらの機器を安全かつ有効に利用するためには、医療チームの中に、医学・生理学的知識だけでなく工学の知識も併せ持った医療従事者がどうしても必要になってきます。この医療従事者が臨床工学士であって、医療の安全を強力に支えます。」法律的な定義では、臨床工学士は医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作、保守点検

を行うことを業とするとされ、硬い表現になっていきます。ここでいう「生命維持管理装置」は読んで字のごとく生命を維持するための機器のことで、代表的には、手術室で使う人工心肺装置、ICUで使用する人工呼吸器、透析センターなどで使う人工透析装置などがあります。

一九八八年に発足した臨床工学科は、これまでに九百五十名余りの卒業生を排出し、ほとんどの卒業生は臨床工学士として、全国の病院や医用工学関連企業で活躍しています。今や、求人の数は年々増加し続け（二〇〇〇年度実績：求人施設数四百六十件、内定率100%）、待遇もかなり恵まれた状況にあり、社会的には臨床工学士の社会的認知は格段に向上したと感じています。勿論、このように社会的に認知されたのは、臨床工学科を志した学生の素質と努力により高い国家試験合格率を維持したことや開拓精神を持ちつつ病院や医用工学関連企業でのたゆまない努力を続けたことによります。これらは臨床工学科の大変貴重な伝統であり、私共はこの伝統を川崎医療福祉大学臨床工学科に引き継いで貰いたいと願っています。この二十年間を振り返ってみれば、多少の紆余曲折もありましたが概ね順調に成長してきたと思います。もうしばらくすると臨床工学科は短期大学から姿を消すことになりましたが、少しでも記憶を長く留めていただければ幸いです。

## 事務部から

### 「こころ」への回帰



教務課 速水 延光

「錦江湾に胡座をかいて、煙草を燻らせている、篤姫も愛でた桜島。西郷が大眼で見上げていた。この悠久の時に流れていたら……。雨雲がやってきて、漁船も霞と消えた。」

昨年、日豊本線の車窓からながめた桜島の印象である。JR指宿・枕崎線の平川駅下車、高台にある「鹿児島県立錦江湾高校」の玄関から見た桜島も「悠久の時」を感じさせた。こうしたささやかな感動が、高校訪問の余得である。

また、松江で夕食に入った店の若いマスターが、「時に流されるのでなく「時に流れる」という、ある作家の言葉が好きだと言った。一日中「時に追われて」たどり着いた私には、作家の名前は忘れたが、そんな緩やかな会話の一時が食事とともに美味であった。

即物的な日常の連続の中で、心と感性に弾力が失われている。現代はデジタル社会、時代の価値はそこにあるが、「こころ」に温もりのある人間であるために、「時に流れる」ことも忘れないでいたい。多忙な一方、「こころ」の中にアナログの時計を動かしていきたい。

川崎医療短期大学にも荒波が寄せているが、生命に向かい「知」と「こころ」の調和ある学園であれば、「悠久なるかな」である。



車窓からの桜島

教員の活動紹介⑭

## インドネシアでの 子育て支援の視察

医療保育科 助教 中井 靖

発達障害とは自閉症(自閉性障害)、アスペルガー障害、ADHD(注意/欠陥多動性障害)、LD(学習障害)等の総称です。

私は臨床心理士として、これら発達障害のある子ども及びその家族の支援に携わっています。平成二十年十二月二十日(二十五日)にインドネシアのジョグジャカルタで、子育て支援の視察及びガジャ・マダ大学にてセミナーに参加しました。これは海外の母子保健及び地域保健の現状を視察することで国際貢献の観点をもった実践的な保健医療専門力を向上することが目的でした。また、海外の保健医療従事者向けの講演を行うことで、コミュニケーション能力及び異文化理解力を養い、さまざまな状況に対応できる総合保健医療を創り、かつ実践できる力を向上することも目指しました。

今回訪問したジョグジャカルタは、ポロブドゥール寺院遺跡群、プランバナナ寺院群の二つの世界遺産があり、インドネシアの古都として代表的な観光地です。また、ガジャ・マダ大学はインドネシア最古最大の大学で、日本語学科があることから日本との関係の深さがうかがえます。

保健水準は新生児死亡率17%(二〇〇四年)、乳児死亡率26%(二〇〇六年)、五歳未満の乳児死亡率34%(二〇〇六年)であり、この十数年間で改善傾向にあるものの、いづれもさらなる改善が求められる水準です。また、乳児死亡の約30%は下痢や肺炎などの感染症によるもので、子どもの低栄養も問題になっています。さらに、インドネシアでは平成十六年に大地震がありました。神戸出身の私にとっては他人事と思えず、今回につながった気がします。



折紙の実演



講演後に握手

インドネシアは発展途上にあり、日本のようにモノが豊富にあるわけではありません。しかし、支え合いを大切にしている気持ちは変わりません。同じ目線で相手とつながりたいと思うこと、これはあらゆる支援者にとって重要であると痛感しました。

次に、講演では現場で働く保健師向けに三つのテーマについて話しました。それは①医療と保育をつなげる本学科の特色、②発達障害のある子どもを対象にして私が行った集団心理療法、③脳発達の観点から日本の伝統的遊びである折り紙の紹介です。私のあやふやな英語が功を奏し、笑いの絶えない講演となりました。

ツフによる健康増進活動、そして神戸市が支援して建てた「子どもの家」という名の児童館を巡りました。子どもの笑顔、それを願う親の気持ちほどの国でも共通だと実感しました。



現地の親子(0歳児)



「子どもの家」で元気いっばいの子どもたち



先輩から後輩へ⑭

## 同窓会を開きましたよー!!

川崎医科大学附属病院中央放射線部 黒住 晃(放射線技術科四期生)

私は川崎医療短期大学を卒業し、川崎医科大学附属病院に勤務しております。川崎医療短期大学の卒業生も多く、日々放射線画像検査に忙しく携わっています。同時に川崎医療短期大学同窓会放射線技術科支部の支部長をも仰せつかっており、念願の専用ホームページもアップ後、一年が経とうとしています(アドレスは後述)。内容はまだまだ充実しておりませんが適時な話題を中心に今後卒業生の皆さまに少しでもお役に立てればと思案中です。

同窓会とは、同じ学校を卒業した仲間との親睦のための団体です。あらゆる技術の進歩が著しい昨今、放射線画像診断も例外ではありません。高度な医療現場では、より鮮明かつ信頼できる画像が求められています。また、職場の環境も時代と共に変化しています。学校で学んだことだけでは通用しない時もあります。そこで情報交換が有用となるわけですが、その一端を同窓会が担っていると考えております。居酒屋やホテルなどで飲食をともにしながら、昔話を語ったり、近況を報告しあったりする楽しい会合なども催して頂きたいと私個人(支部長)としては思うところです。

今回、後輩へのメッセージということで、NHKのテレビドラマ「フルスイング」を思い出しました。主人公の高島導宏さんは三十年間のプロ野球の打撃コーチを経て五十九歳で高校の社会科教師として生徒を熱血指導しました。しかし、教師生活はわずか一年足らずで、がんのためにこの世を去りました。(平成十六年七月一日)。「才能とは逃げ出さないこと」「平凡の繰り返しは非凡になる」の遺訓は生徒たちに伝えられたと思われまします。原作の門田陸将著「甲子園への遺言」(講談



社)は初版から十五刷を数えるベストセラーであり、心に響く言葉がたくさんあります。高島さんは、プロ野球の世界で最初の五年は選手として、後の三十年はコーチとして三十五年間も暮らして、伸びる選手には共通のものがあることに気がついたそうです。それは、プロ野球の選手に限らず、一般人も同じだと言うこともわかったそうです。人生そのもので大切な、伸びる人の共通点とは、次の七点です。

- 一、素直であること。
- 二、好奇心旺盛であること。
- 三、忍耐力があり、あきらめないこと。
- 四、準備を怠らないこと。
- 五、几帳面であること。
- 六、気配りができること。
- 七、夢を持ち、目標を高く設定することができること。

渾身の努力を払い、極限の精進を経て、一流になつていった選手たち。一流選手とは持つて生まれた身体能力だけで開花したのではないのです。自分の人生を考えたとき、素晴らしい花を咲かせられるかどうか努力次第なのです。



改築工事がはじまった中央放射線部撮影室

皆さんも、現状に満足せず向上心を持つことを忘れないでください。私自身も「一生勉強」と考え、頑張っていきたいと思っています。放射線技術科同窓会ホームページアドレス  
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/dousoukai/R/Tshibu/index.html>

平成 20 年度

## ネットワーク委員会 アンケート結果報告

学内情報ネットワーク管理運用委員会では、平成十八年度から、学内におけるコンピュータ利用環境改善の参考資料を得るため、在学生を対象にアンケート調査を実施しています。今回は平成二十年

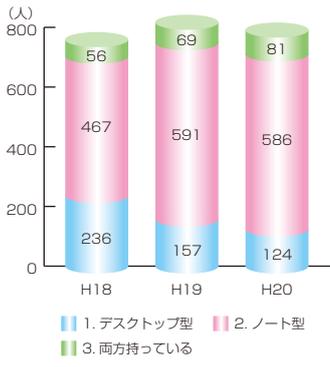


図1 パソコンの個人所持状況

十月に実施し、ほぼ全員（二千十四人）のアンケートが回収されました。質問事項は、学内におけるコンピュータの利用状況、所有状況等六項目にわたります。在学生の皆さん、アンケート調査にご協力ありがとうございました。

アンケート結果は昨年とほぼ同じで、学内での利用環境が整っているパソコン所有学生は、パソコンの利用頻度が多く、利用できる場所を均等に利用しているようです。パソコン（インターネット）の利用希望場所については、利用環境は改善しつつありますが、ホームルーム教室（五百四十八人）、学生ホール（二百八十一人）、寮・図書館などのその他の場所（二百二十七人）と

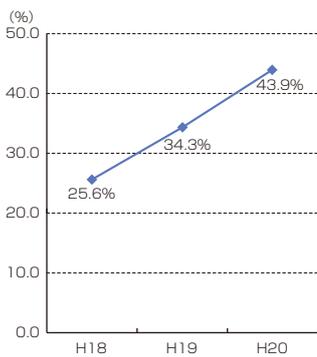


図2 ノート型PC所有者の学内ネットワーク利用率

希望者数は多いようです。なお、情報教育室の設備については、平成二十年度に新しくパソコンを入れ替えたため満足度は上昇していました。

過去三年間の利用状況については、パソコンの利用場所が情報教育室から他の場所（HR教室、学生ホール等）へ移行していく傾向がみられます。これは、臨床検査科・放射線技術科学生にノート型パソコン所有者が増加したこと、学内の利用環境が幾分改善され、情報教育室以外でのネットワーク利用者が増加したためであると思われます。

しかしながら、70%近くの学生がノート型パソコンを所有しているにも関わらず、半数以上の学生が学内での利用経験がないようです。現在本学では、ネットワーク接続申請をすれば誰でも学生ホールで利用できるようになってきました。接続申請書が情報教育室奥の準備室にありますので、申請手続き後、ぜひ利用して下さい。学内情報ネットワーク管理運用委員会では、今後も継続してアンケート調査を実施し、学生の希望に沿ったコンピュータ利用環境改善のために役に立てていきたいと考えています。

委員長 阿部利則

今回は、本学の冷暖房のしくみを説明します。短大校舎の中では北校舎と学生寮を除き、冷暖房は空調機による単一ダクト方式になっています。そのしくみは、重油と電気水を沸かします（夏は冷水にします）。それをポンプで配管を通して各階へ送り、熱交換をしてファンで温風もしくは冷風を流しています。

川崎学園全体の奨励温度は、暖房が二十二度、冷房が二十六度となっております、本学もそれに準じています。しかし、実際にはその温度に達してないこともあります。あまりにも寒い日は、設定を二十三〜二十五度に変更しています（夏場も同様です）。

また、学内全体で同じ温度を設定しているにも関わらず、本学の冷暖房設備は旧式であるために、部屋によっては温度環境が異なることもあります。それは、各階にある、その温度感知器が寒いと感知すると温風を送り出すので、同じ感知

地球温暖化対策  
ワーキンググループだより

NO.4

## 川崎 エコプロジェクト

ちょっとのガマンで  
省エネ効果

器エリア内の、日が差し込んで暖かい部屋は暑くなってしまふからです。また、暖かいと感知すると、サーモスタットが働き、逆に涼しい風を送るようになるので、部屋によっては寒くなります。

温暖化防止のためにも、多少の我慢をお願いしたいのですが、勉強に耐えられない環境でしたら、事務室庶務課まで連絡をしてください。

そして、皆さんにもうひとつ協力してもらいたいことがあります。講義がない教室に暖房をつけてほしいということで稼働させると、単一ダクト方式なので、その近辺の教室全部に暖房が入ります。少数での教室の使用は光熱費がかかるので、図書館や学生ホールを努めて利用してください。

近年、重油・電気料金が高騰しており、数年前に比べて金額は重油が約二倍、電気代は数倍にも増えています。皆さんのちょっとしたガマンで大きな省エネ効果となりますので、ご協力をよろしく願います。

（設備係主任 平松孝）



これは温水（冷水）を送る装置です

❖「第37回医療功労賞」受賞❖

「子どもの健やかな成長を」

医療保育科 教授(主任) 梶谷 喬



平成21年2月3日(火)、本学医療保育科主任教授梶谷 喬先生が「第37回医療功労賞」(読売新聞社主催・厚生労働省など後援・エーザイ協賛)を受賞されました。この賞は、長年、献身的に地域医療にかかわり、功績をあげた医療従事者に贈られるものです。

梶谷教授は、川崎医科大学附属川崎病院顧問の小児科医として、休日や夜間に子どもが病気やけがをした時、保護者らが電話で医師らの助言を受けられる「小児救急医療電話相談」と県内どの市町村でも、住んでいる市町村と同じ負担額で予防接種が受けられる「相互乗り入れ制度」の導入に多大な寄与をした功績が高く評価され、今回の受賞となりました。

梶谷先生にその内容を語っていただきました。

このたび私は囚らずも、読売新聞の第37回医療功労賞を受賞することになりました。受賞の主な理由は、私が岡山県医師会理事に就任してから、岡山県における小児救急医療電話相談事業および予防接種の全県の相互乗り入れ制度の導入に尽力したことようです。しかし、これらはいずれも行政すなわち岡山県保健福祉部の施設指導課と健康対策課の当時の職員の方々の御協力があって実現できたのです。

電話相談事業は平成16年8月から開始されました。開始当初は土・日曜日、祝祭日、年末年始の準夜帯だけで、約30名の小児科医、内科・小児科医が相談に当たり、一晩の相談件数は平均5～6件でしたが、平成19年5月から看護師の協力を得て平日の準夜帯も相談できるようになり、最近では一晩の相談件数が15～30件と増加してまいりました。相談終了時の相手の反応は、「納得した」が9割以上でした。

定期予防接種の広域化すなわち全県の相互乗り入れ制度は長年の懸案でしたが、平成15年4月にやっと実現することができました。先天性心疾患患児、低出生体重児、脳性まひ児、アレルギー疾患患児、けいれんの既往のある児など、自分の居住地で予防接種を受けることができなかつた子どもが、居住地以外にある自分のかかりつけ医の所で体調のよい時に自己負担なしに接種してもらえるようになりました。これを開始するに当たっては、県内の各市町村の予防接種

担当者、保健所の担当者に2～3回一堂に会してもらい、健康対策課の職員と私ども小児科医会の会員がこの制度の必要性を説明し、協力を要請しました。この制度が発足してから岡山県内の定期の予防接種率は著しく向上しました。

このような短大の仕事以外のことをやっていたので、中原副主任をはじめ医療保育科の教員には何かと御迷惑をおかけしたと心苦しく思っています。今後も私が元気なうちは、地域の子どものための医療、保健、福祉に少しでもお役に立つよう努力したいと思っています。



「秋の全国火災予防運動」に合わせ、平成二十年十一月二十六日(水)の十四時から消防訓練を実施しました。火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、火災予防意識の一層の高揚を図り、火災発生時の初期消火を迅速かつ的確に行うことができる知識と技能を身につけ、火災の発生を防止することが目的です。

訓練は、総務部警備課明石課長をはじめ警備課職員の方の指導の下、山口副学長、今城・下田両学長補佐、名木田学生部長、小橋事務部長をはじめとする教職員、学生寮職員、食堂従業員等五十四名が参加しました。はじめに明石課長から消火器・消火栓の仕組みや操作方法の説明があり、続いて参加者が実際に火災を消火器で消火する消火器操作、及びホースを用いて放水する消火栓操作を体験することができました。この体験は、火災発生時の初期消火において確実に活かされるものと思われまふ。また、何よりも今回の消防訓練の実施により、教職員等の火災予防に対する意識の高揚につながったと確信しています。

今回は、教職員等を対象に実施しましたが、今後は学生も参加する全学挙げての消防訓練を計画したいと思っています。

(庶務課 藤原忠昭)

平成二十年 消防訓練実施  
消火器・消火栓の操作を体験



平成21年度

## 公開講座

第1回

### 講座名:「老いをどう支えるのか?」

講師:藤原芳朗(本学教授)  
内田富美江(本学准教授)  
日時:6月14日(日) 10:00~11:30  
会場:川崎医療短期大学 体育館101教室

第2回

### 講座名:「ヒトに優しい優れモノ~超音波の医療応用~」

講師:嶋 二郎(本学教授)  
日時:8月22日(土) 10:00~11:30  
会場:川崎医療短期大学 体育館101教室

第3回

### 講座名:「性と健康」

講師:松本明美(本学教授)  
登喜玲子(本学准教授)  
日下知子(本学講師)  
日時:10月10日(土) 10:00~11:30  
会場:川崎医療短期大学 体育館102教室

平成21年

## オープンキャンパス

平成21年のオープンキャンパスは、以下の予定で開催します。  
「いつも新しい発見ができるオープンキャンパス」を合言葉に開催します。受験生の方のみならず、高校1・2年生の方でも本学の特色と良さ面白さを体験できるオープンキャンパスを企画しています。

詳細については、本学ホームページをご確認ください。  
なお見学は、随時受け付けております。また、詳しいことをお知りになりたい場合は教務課までお問い合わせください。  
平日17:00まで、土曜日12:00まで (☎086-464-1033)

平成21年	期 日	日 程
第1回	3月20日(金・祝)	10:00~12:00
第2回	5月23日(土)	13:00~16:00
第3回	6月14日(日)	13:00~16:00
第4回	7月26日(日)	10:00~15:00
第5回	8月22日(土)	13:00~16:00
第6回	10月10日(土)	10:00~15:00
	10月11日(日)	10:00~15:00

### 主要行事(4月~6月)

4月  
1日 新入生オリエンテーション  
3日 新入生健康診断  
7日 入学式  
放射線技術科3年臨床実習開始(~/7/30)  
11日 臨床工学科ワッペン授章式  
13日 看護科3年臨地実習開始(~/10/7)  
21日 臨床工学科3年病院実習開始(~/7/17)

5月  
16日 スポーツ大会  
23日 第2回オープンキャンパス  
25日 医療保育科3年幼稚園実習開始(~/6/21)

6月  
1日 学園創立記念日  
14日 第3回オープンキャンパス  
第1回公開講座  
15日 介護福祉科2年第二段階実習開始(~/7/11)  
16日 医療保育科保育実習開始式  
17日 医療保育科2年保育実習1開始(~/6/27)

### 平成21年度一般入試前期結果

一般入試前期(試験日1月30日、合格発表2月6日)

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	介護福祉科	医療保育科	計
募集人員(名)	30	28	30	10	15	113
志願者数(名)	114	108	108	3	10	343
志願倍率(倍)	3.8	3.9	3.6	0.3	0.7	3.0
合格者数(名)	75	55	47	3	8	188

平成21年度一般入試前期は、志願者数343名(募集人員113名、志願倍率3.0倍)という結果になりました。【平成20年度志願者数333名(募集人員128名、志願倍率2.6倍)】

なお、一般入試後期は3月13日(金)に実施されます。詳細は本学教務課までお尋ねください。入試情報は本学ホームページにも掲載されています。

平成22年度の入試概要は、6月以降に公表しますので、ホームページをご覧ください。なお、詳細については、学生募集要項でご確認ください。

入試に関する問合せ先

【教務課】

電話:086-464-1033

Eメール:nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

### 学 生 表 彰

日本臨床工学技士教育施設協議会	会 長 賞	臨床工学科3年	古根川 綾
日本臨床工学技士会	会 長 賞	臨床工学科3年	林 逸美
電気・情報関連学会中国支部	卒業生表彰	臨床工学科3年	伊藤 洋介
社団法人介護福祉士養成施設協会	会 長 賞	介護福祉科2年	岡島由布子
全国保育士養成協議会	会 長 表彰	医療保育科3年	白神 麻衣

### 川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(64号)

平成21年3月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

名木田恵理子(一般教養・委員長)

藤原忠昭(庶務課・副委員長)

橋本美香(一般教養) 影本妙子(看護科)

近末久美子(臨床検査科) 天野貴司(放射線技術科)

立花博之(臨床工学科) 河邊聡子(介護福祉科)

中井 靖(医療保育科) 重政有里(庶務課・書記)

写真協力: 二葉写真館

印刷: 友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194

倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話: 086-464-1032(庶務課)

Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ

http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

広報誌「若きいのち」がスタートして四年が経ちました。忙しい本務の傍ら編集の素人集団がどこまでできるのだろうか、スタート当時の暗中模索が思い出されます。実際には、毎回多くの原稿や写真が寄せられ、今では十二ページの中にどう収めようかと頭を悩ませるほどです。これも、教職員、在学生、卒業生、その他多くの方々のご協力の賜物と感謝いたします。

広報誌のもう一つの「宝物」は委員の協力的体制です。近末委員と天野委員のリーダーシップの下に編集体制が生まれ、各委員が自分の役割を十二分に果たしてきました。このたび任期切れで一部委員が交代しますが、広報誌編集委員会の「良き伝統」は引き継がれていくものと信じています。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(名木田恵理子)

編集後記